

KANSAI GAIDAI UNIVERSITY

アニメキャラクターからみる翻訳についての一考察：
英語版『千と千尋の神隠し』をケーススタディとし
て

メタデータ	言語: jpn 出版者: 関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部 公開日: 2021-09-23 キーワード (Ja): 役割語, キャラクター言語, 自称詞, 対称詞, 要求表現 キーワード (En): 作成者: 安井, 寿枝 メールアドレス: 所属: 関西外国語大学
URL	https://doi.org/10.18956/00007990

アニメキャラクターからみる翻訳についての一考察

— 英語版『千と千尋の神隠し』をケーススタディとして —

安 井 寿 枝

要 旨

本稿は、『千と千尋の神隠し』にみられるキャラクター言語の表現を示したのち、どのように英語翻訳されているかを確認したものである。日本語では自称詞や対称詞の語形の違いによって、人間界に属するものと油屋の世界に属するものというキャラクターを表現していたが、英語ではキャラクター言語としての一人称や二人称が日本語ほど機能していないことが示された。また、要求表現に注目すると、日本語の台詞では、湯婆婆が命令形を多用することで恐ろしいキャラクターを表現していたが、英語ではすべての登場人物が共通して命令文を多用するため、日本語のように命令形を多用することによるキャラクターの特徴を表現しているとはいえない。一方で千尋に注目すると、英語では「PLEASE」を多用しており、クダサイ形を多用するキャラクターが表現されている例も確認できた。

キーワード：役割語、キャラクター言語、自称詞、対称詞、要求表現

1. はじめに

『千と千尋の神隠し』は、2001年7月20日に公開されたスタジオジブリの映画である。原作・脚本・監督を宮崎駿が行い、2003年に第75回アカデミー賞で長編アニメーション映画賞を受賞した¹⁾。本映画についての研究は、表現内容に注目したものが多い一方で、翻訳について述べられたものは少ない（山田健太郎（2004）・田中歩美（2004））。また、映画などの役割語やキャラクター言語をどのように翻訳するかについても近年扱われるようになったが、発展途上といえよう（金水敏ほか（2018）・嶋津拓ほか（2020）など）。先にも示したとおり、本映画は第75回アカデミー賞で長編アニメーション映画賞を受賞していることから、日本以外で周知されている作品であり、描かれている世界が特殊なことから役割語やキャラクター言語が多用されている。そこで本稿では、『千と千尋の神隠し』を対象として、まず、作品内の役割語やキャラクター言語を自称詞・対称詞・要求表現から総覧し、それらが作品の表現にどのように活かされているかを示す。次に、それらがどのように英語翻訳されているかを確認する。

2. 『千と千尋の神隠し』にみる表現

2.1 先行研究にみる物語の構造とキャラクターの言葉

日本語、特に漫画にみられる表現には、金水（2003）が定義した役割語がある。さらに、金水（2015：pp.5-13）は、役割語の適用範囲を限定すると、「役割語とは言えないが標準語ともいえない特徴的な話し方をするキャラクターがフィクションに登場することもしばしば見られる」（p.6）として、「キャラクター限定の話し方であるが役割語とは言えない話し方の類型」（p.6）を「キャラクター言語」としている。本稿では、『千と千尋の神隠し』における使用が役割語かキャラクター言語かは重要でないため、それらをキャラクター²⁾の特徴がみられる用法として扱うこととする。

表1 『千と千尋の神隠し』登場人物のアーキタイプと言語

分類	細分	名前	アーキタイプ	自称詞	言語
クラス1		千=千尋	主人公	わたし	〈女ことば〉 〈子どもことば〉
クラス2	クラス1に近い	ハク	同調者・メンター ・変貌者	わたし	古風な〈男ことば〉
		釜爺 リン 湯婆婆 銭婆 カオナシ 坊	メンター 同調者 影 メンター 変貌者 トリックスター	わし あたい・オレ あたし あたし・わたし 坊	〈老人語〉〈田舎ことば〉 〈男ことば〉 若い〈おばあさん語〉 若い〈おばあさん語〉 (うなり声) 〈赤ちゃんことば〉
	クラス3に近い	青蛙 番台蛙 父役・兄役	トリックスター		〈時代劇語〉
クラス3		女達		あたしら・あたい	時代劇風〈女ことば〉

（金水（2019：p.82）による）

『千と千尋の神隠し』における物語の構造とキャラクターの言葉の関係について書かれた先行研究では、金水（2019）がある。金水（2019）では、『千と千尋の神隠し』のキャラクターを表1のようにまとめている。分類のクラス1は主人公および準主人公、クラス2はメンター³⁾、同調者、敵対者、トリックスター、変貌者、影といったアーキタイプに属する重要なキャラクター、クラス3はほぼ1回登場したらそれっきりの人物であり、従って名前が現れることもまれである、としている。金水（2019）では、『千と千尋の神隠し』を「ヒーローの旅」という物語の構造と登場人物の台詞のスタイルが強く関連し合っていることを示しているが、次節ではさらに、『千と千尋の神隠し』の内容と言語的特徴が、どのように関連しているかについて触れたい。

2.2 自称詞および対称詞にみられるキャラクターの特徴

まずは、表1にあげられている女性の自称詞を確認する。これらをみると、「わたし」「あたし」「オレ」「あたし」が確認できるが、表1に記載されていない使用もあるため、改めてまとめると表2になる⁴⁾。彼らの所属している世界を「人間界」と「油屋の世界」に分けると、人間界に

表2 女性キャラクターの自称詞

人間界	千尋	わたし・ わたし 私
油屋の世界	千	わたし・あたし
	リン	あたし・オレ
	湯婆婆	あたし・バーバ
	銭婆	あたし・わたし
	女達	あたしら・あたし

所属する千尋（千）は「わたし」「私」「あたし」を、油屋の世界に所属するものは「あたし」「オレ」「あたし」「わたし」を使用している。ただし、千尋が使っている「あたし」は、自称詞の使用例が28例あるなかで1例のみであり、銭婆が使っている「わたし」は、自称詞の使用例が5例あるなかで1例のみであるため、千尋の基本的な自称詞を「わたし」、銭婆の基本的な自称詞を「あたし」だとすれば、人間界が「わたし」、油屋の世界が「あたし」「おれ」「あたし」に分類できる。さらに、女達を使う「あたし」も1例のみであるため、油屋の世界では、湯婆婆と銭婆が「あたし」、油屋の働き手であるリンと女達が「あたし」を使っているとして、「あたし」と「あたし」には年齢と役職という位相がみられる。『日本国語大辞典第二版』では、「わたし」は「もっとも普通のことば」、「あたし」は「多くは東京下町または花柳界の婦女子が用いる」、「オレ」は「広く貴賤男女を問わず目上にも目下にも用いた。現代では、男子が、改まらない場面で同等もしくは目下に対して用いる」、「あたし」は「主として女性が用い、ややくだけた語感を持つ」とされている。現実の日常会話では、「わたし」と「あたし」は個人でも無意識に混在しており、小林美恵子（2016：pp.41-72）は、女性の使う「わたし」と「あたし」について、「実は「わたし」と「あたし」にはそれほど大きな使用意識の差はないとみるべきかもしれない」（p.51）としている。そこで、『千と千尋の神隠し』では、自称詞の語形に注目したい。湯婆婆と銭婆を使う「あたし」は「わたし」がくずれた語形、リンや女達が使う「あたし」は「あたし」がくずれた語形であることを考えると、人間界に所属する千尋は語形のくずれていない自称詞を、油屋の世界に所属するものは語形のくずれた自称詞を使っているといえる。つまり、油屋という特殊な世界を自称詞の語形で表現しており、その中でリンが「オレ」を使うのは、油屋内で唯一千尋の味方をする女性である特殊性が表現されていると考えられる。さらに、湯婆婆は坊に対して、自分自身のことを「バーバ」と称しているのも特殊である。この使用は、鈴木孝夫（1973）に述べられている家族間の自称詞とみられるが、湯婆婆と坊が親子であることを考えると「お母さん」や「ママ」ではなく、「バーバ」を使用するのは特殊となり、油屋の世界が異質であることを表す効果があるといえる。

男性の使用する自称詞を改めてまとめると表3になる。人間界に所属する千尋の父親は「お父さん」、油屋に所属するものは「わたし」「私」「ハク」「わし」「ワシ」「坊」「オレ」を使用している。千尋の父親が自称詞に「お父さん」を使用しているのは、鈴木（1973）に述べられている日本語の自然な使用である。一方、坊が使用する「坊」は、表1にもあるとおり、〈赤ちゃんことば〉であり、赤ちゃんというキャラクターを表している。一方、ハクが使用する「ハク」は、次のような使用例であり、自身を客観的に指示していると考えられる。下線は本稿筆者による（以下同じ）。

表3 男性キャラクターの自称詞

人間界	父親	お父さん
油屋の世界	ハク	わたし・ ^{わたし} 私・ハク
	釜爺	わし・ワシ
	坊	坊
	青蛙	ワシ・オレ
	カオナシ	オレ・ワシ

- (1) ハクはここにいるぞ！！（一 p.150）

ハクが自称詞に「ハク」を使うのはこの1例のみであり、ハクの使用する基本的な自称詞は「わたし」である。一方、油屋で働いている釜爺や青蛙は、「わし」「ワシ」や「おれ」「オレ」を使用している。映画は音声のみであるため表記は問題とならないが、台本にカタカナが表記されていることから、少なからずカタカナには何かしらの表現が含まれているとみえ、青蛙やカオナシがカタカナの自称詞を使っているのは、研究社WEBマガジン「〈役割語〉トークライブ！第19回」の「カタカナと役割語」で述べられているように、「人ならざるもの」であることが原因だと考えられる。一方、釜爺は、3例がひらがな、1例がカタカナである。同じ記事の「文字のマルチモダリティ」では、「通常ひらがなや漢字で書く表現を、規範を外してカタカナだけにすることで、言語表現に付加的なイメージや意味を重ねることができる」としているが、釜爺が「ワシ」を使う1例はこれに当てはまらない。人とまったく同じ姿をしているハクがカタカナの自称詞を使わないことから考えると、青蛙やカオナシに比べれば、釜爺は少なくとも人と同じ顔を持ち、人に近い姿だといえることから、「人に近いもの」としてひらがなの使用が基本となっていると思われる。「人ならざるもの」としての「ワシ」と「オレ」の使い分けとしては、青蛙の使用例の文末に「ワシ」は普通体、「オレ」は丁寧体が使われていることから、釜爺の使用とともに捉えると、油屋で働く男性が使用する「ワシ」が同等あるいは目下に対する自称詞、「オレ」が目上に対する自称詞ともいえる。

- (2) カオナシに対して「こ これ ワシにくれるのか！？」（三165）

- (3) 湯婆婆に対して「で でも ^{せん}千のおかげで^{なす}オレたち助かったんです」（五90）

カオナシは、油屋の外から来た「異質なもの」であるために、青蛙のような使い分けはみられない。カオナシは、油屋のものを次から次へと食べてしまう。また、油屋の総責任者である湯婆婆は、カオナシを「ロクでもないもの」(三53)と表現していることから、人間の世界からはもちろん、油屋の世界からもカオナシが「異質なもの」であることがうかがえる。

- (4) 兄役に対して「兄役どの オレは腹が^{はら}へった」(三168)
- (5) 兄役に対して「ワシは客だぞ ^{きやく} フロも^{はい}入るぞ みんな^お起こせ」(三169)
- (6) 油屋のものに対して「オレは腹^{はら}ペコだ」(四17)

これらを総合すると、油屋の世界の男性は、人らしいもの・人に近いもの・人ならざるもの・異質なものに分類でき、それぞれの自称詞は表4のようにまとめることができる。そして、このようにまとめると、油屋の世界で千尋を助ける男性キャラクターは、人らしいもの・人に近いものであり、ひらがなや漢字が使われていることがわかる。さらに、ハクは人間界の川の神「ニギハヤミコハクヌシ」であり、油屋の中で唯一、人間界の出身であることが明示されている。そのような登場人物が、人間界の千尋と同じ自称詞を使っているのは、偶然ではないと思われる。

表4 油屋の世界における男性キャラクターの自称詞

人らしいもの	ハク	わたし・ ^{わたし} 私
人に近いもの	釜爺	わし・ワシ
人ならざるもの	青蛙	ワシ・オレ
異質なもの	カオナシ	ワシ・オレ

次に、対称詞について確認する。『千と千尋の神隠し』で使用されている対称詞についてまとめた先行研究はないため、本稿においてまとめると表5・表6のようになる。

表5 女性キャラクターの対称詞

人間界	千尋	お父さん おかあさん・お母さん 釜爺さん	
	母親	千尋	あなた
油屋の世界	千	お父さん・お母さん ハク・コハク リンさん・リン 釜爺さん・おじさん 銭婆さん・おばあちゃん みんな	あなた
	リン	そこの子・千・セーン・じいさん・カオナシ	あんた・お前
	湯婆婆 銭婆 女達	千・リン・みんな・坊・ボー・お客さま みんな・ハク竜・坊や リン	お前 お前・あなた・あんた

表6 男性キャラクターの対称詞

人間界	父親	千尋	
油屋の世界	ハク	千尋・千・おじいさん	そなた
	釜爺	千・ハク・チビ共	あんた・お前・おめえ
	坊	バーバ	お前
	青蛙	ハクさま・お主	
	父役・兄役 カオナシ	千・ハクさま・リン・ひとことぬし様 千・セン・小娘・兄役どの	お前 お前

人称代名詞に注目すると、女性キャラクターは「あなた」「あんた」「お前」を使用している。これらは、人間界のものは「あなた」を、油屋の世界のものは「あんた」「お前」を使用していると分類でき、自称詞と同様に、語形によって人間界と油屋の世界を表現しているといえる。また、油屋の世界で唯一「あなた」を使用している銭婆の使用は、ハクに対して正式に許しを与える場面であり、改まった場面という位相が影響していると考えられる。

- (7) ハクに対して「ハク竜 あなたのした事はもうとがめません」(五136)

男性キャラクターは、「そなた」「あんた」「お前」「おめえ」の使用がみられ、すべて油屋の世界のものの使用である。自称詞でみられた、人らしいもの・人に近いもの・人ならざるもの・異質なものに注目すると、人らしいものは「そなた」、人に近いものは「あんた」「お前」「おめえ」、人ならざるもの・異質なものは「お前」を使用している。ここからは、自称詞と同様にハクが特別であることがわかり、ハクが「そなた」を使用するのは神であることの暗示だと考えられる。3種類の使用が確認できる釜爺は、以下のように使用している。

- (8) 千尋に対して「あんたも気まぐれに手エ出して人の仕事をとっちゃならねえ」(二42)
 (9) 千尋に対して「ここにあんたの仕事はねえ」(二42)
 (10) 煤に対して「なんだお前達 文句があるのか!」(二43)
 (11) リンに対して「おめえ 湯婆婆んとこへ連れてってくれねえか」(二50)
 (12) ハクに対して「お前 何もおぼえていないのか」(五88)

これらの使用からは、下位者あるいは同等の者には「お前」「おめえ」を使用しているようにみえるが、千尋に対しての使用から、「あんた」はソトの関係の者に対して、「お前」「おめえ」はウチの関係の者に対して使用されているともいえる。また、ハクの事は「ハク」、千尋を受け入れた後は「千」と名前と呼んでいることから、親疎関係としては、お前・おめえ<名前<

あんた、の順になるといえよう。次に、名詞に注目する。主人公である千尋は、「お父さん」「おかあさん」「お母さん」「ハク」「コハク」「リンさん」「リン」「釜爺さん」「おじさん」「銭婆さん」「おばあちゃん」「みんな」であり、親族間で使用する対称詞と接尾辞「さん」を使った対称詞が確認できる。油屋の世界の人物の中で、千尋と同じような使用をするのはハクのみであり、自称詞と同様に、人間界の出身であることが影響していると考えられる。それは、千尋のことを「千尋」と呼ぶか、「千」と呼ぶかにも影響しており、千尋の本当の名前を知っているにもかかわらず、湯婆婆や銭婆が「千尋」と呼ぶ例はない。その他の登場人物では、叫んでいる場面で本来は漢字表記であるにもかかわらず、カタカナ表記が選択されている⁷⁾。一方、坊の「バーバ」は叫んでおらず、他称詞での使用もみられるため、幼さが表現されているといえよう。

2.3 要求表現にみられるキャラクターの特徴

本稿では、相手に何らかの行為を要求するものを要求表現とした。『千と千尋の神隠し』にみられる要求表現は、次のようなものである。

- (13) 命令形（まかせとけ・さめろ）
- オ+連用形（お聞き）
- テ形（やめて・おいで）
- クダサイ形（働かせてください・お探し下さい）
- オクレ形（静かにしておくれ・やめとくれ）
- クレル形（離してくれる?）
- チョウダイ形（～してちょうだい）
- ゴラン形（吸ってごらん）
- ナサイ形（座ってなさい・待ってなさい）
- ナ形（気をつけな・ついて来な）
- ウ形（戻ろう・戻りましょう）
- ナイ形（行ってみない?）
- ネエカ形（連れてってくれねえか?）
- ンカ形（はやくせんか・しずまらんか）
- 〇形（はやく・しずかに・お引き取りを）
- ノダ形（おりるんだ・会うんだ）
- ハウガイイ形（行かない方がいいぞ）
- オネガイ形（クツと服おねがいね）

禁止ナ形（こわがるな）

禁止ナイ形（来てはいけない）

禁止ダメ形（太っちゃだめだよ）

これらの使用をキャラクターごとにまとめると、表7・表8になる。このようにまとめると、『千と千尋の神隠し』は要求表現の種類が多いことがわかり、多くのキャラクターが使用しているのは、命令形とテ形である。しかし、高橋美奈子（2016：pp.215-237）は、現実の親子間の日常会話では命令形は使われないことを述べている。高橋（2016）によると、「親子間において動詞命令形の使用はみられなかったが、「動詞連用形＋終助詞な」の使用はみられる」（p.222）とされる。『千と千尋の神隠し』を確認すると、母親は千尋に対して命令形を使用していないが、父親は千尋に対して命令形を使用している。使用例は（14）である。

表7 女性キャラクターの要求表現

人間界	千尋	命令形 テ形 クダサイ形 ウ形	禁止ナ形 禁止ナイ形
	母親	テ形 チョウダイ形 ナサイ形 ナ形 ウ形	
油屋の世界	千	テ形 クレル形 ウ形 ハウガイイ形 オネガイ形	禁止ダメ形
	リン	命令形 テ形 クダサイ形 ナサイ形 ナ形	禁止ナ形 禁止ナイ形
	湯婆婆	命令形 オ連用形 テ形 クダサイ形 オクレ形 ナサイ形 ナ形 ノダ形	禁止ナイ形
	銭婆	オ連用形 テ形 オクレ形 クレル形 ナ形 〇形 ノダ形	
	女達	オクレ形	

表8 男性キャラクターの要求表現

人間界	父親	命令形 テ形 ナ形 ウ形 ナイ形	
油屋の 世界	ハク	命令形 オ連用形 テ形 クダサイ形 ゴラン形 ナサイ形 ナ形 Ø形 ノダ形	禁止ナ形 禁止ナイ形
	釜爺	命令形 オ連用形 ナサイ形 ネエカ形 ンカ形	
	坊	命令形 ナ形	
	青蛙		
	父役 兄役 番台	命令形 クダサイ形 ンカ形 Ø形	禁止ナ形
	カオナシ	命令形 ゴラン形	

(14) 千尋「お父さん ^{とう} 大丈夫？」

父親「まかせとけ」「この車は四駆だぞ」(一22-23)

(14) をみると、形式は命令形であるものの、「大丈夫？」に対する応答表現だといえよう。また、千尋が使用する命令形も自分自身に対して、「(悪夢から) さめろ！」(一96) と独白で使用されており、聞き手に対する要求表現とはいえない。そのため、『千と千尋の神隠し』においても、現実の日常会話と同様に親子間の要求表現は命令形ではなく、「動詞連用形＋終止形な」を用いるのが基本だといえる。次に、小林(2003: pp.13-25) から現実の日常談話の職場における命令形の使用を確認すると、「命令形の使用自体は命令・依頼表現356例中23例(6.46%)を占めるにすぎないが、男性的とされた表現については、やはりそのほとんどを男性が使っている」(p.21) とされている。『千と千尋の神隠し』では、男性の使用例にはすべて命令形がみられ、女性ではリン・湯婆婆に命令形がみられる。リンは「オレ」を使っていること

からも金水（2019）には「ぞんざいな男ことばと認められる」（p.78）といわれている。また、湯婆婆は油屋を支配しており、油屋で仕事をしないものを動物にするような魔女である。そのような湯婆婆の恐ろしさを命令形の使用で表現しているといえよう。さらに、小林（2003）は、「自然談話に現れる命令・依頼の表現の割合はTVドラマのおよそ10分の1程度にすぎず、職場という環境であっても実際に命令や、依頼はそれほどの頻度で行われてはいないと言える」（p.18）とされ、『千と千尋の神隠し』も同様に虚構であるために要求表現が多く使用される傾向にあり、加えて命令形の使用によって油屋という特殊な世界が表現されているといえる。次に多用されているテ形は、高橋（2019）や小林（2003）においても多用されていることが示されており、もっとも自然な要求表現である。このことから、命令形を多用することで油屋の世界を表現しながら、テ形の多用で現実世界との均衡を保ち「どこかでありそうな話」を表現しているといえよう。

3. 『千と千尋の神隠し』の翻訳の特徴

3.1 先行研究にみる『千と千尋の神隠し』の翻訳の特徴

『千と千尋の神隠し』の英語訳の特徴については山田（2004）が、中国語訳の特徴については田中（2004）が述べている。山田（2004）は、日本語と英語に対応がみられる場合においても「全体として原作よりも英語版の方が台詞の言葉が多い」（p.202）とし、英語版において台詞が追加される場合は、「原作での暗黙の了解が英語版で明示的な台詞となっているといえる」（p.202）とし、文学作品よりも「原作に対してはるかに自由な書き加えを行っているといえる。そしてその多くは物語の合理性と明示性を補強するものとなっている」（p.204）としている。田中（2004）は、「どれもすべて中国人に分かりやすいセリフにしてあるということである」（p.20）とし、「古来伝わってきた日本の文化や習慣、風俗などに関連する言葉」（p.20）を書き換えている例をあげている。そして、「中国語版を通して見える映画翻訳の問題点は、まず1つに映画自体のストーリーを理解することが目的で、中国的に訳されるため、日本語版とまったく意味が変わることもあることだ」（p.21）としている。これらを踏まえて、以下では、「2. 『千と千尋の神隠し』にみる表現」でみた自称詞・対称詞・要求表現の表現性が英語でどのように翻訳されているかを確認したい。

3.2 自称詞および対称詞の翻訳

2.2において、自称詞や対称詞の使用、特に語形の使い分けによって、人間界と油屋の世界を表現していることを示した。3.2では、これら日本語の表現が翻訳でどれほど表現されているかを確認したい。まず、自称詞の使用が英語でどのように翻訳されているかを示すと、表9・表10になる。これらを見ると、基本的に「I」「MY」「ME」「WE」「OUR」「US」という一人称が使用されていることがわかる。一人称を使用していない父親が使用する「DADDY」は、次のような使用である。

表9 女性キャラクターの自称詞（英語）

人間界	千尋	I・MY
油屋の世界	千	I・MY・ME
	リン	I・MY・ME・OUR・US
	湯婆婆	I・MY・ME
	銭婆	I・MY・ME
	女達	I・WE・OUR

表10 男性キャラクターの自称詞（英語）

人間界	父親	DADDY
油屋の世界	ハク	I・MY・ME
	釜爺	I・MY
	坊	I・ME
	青蛙	ME・US
	カオナシ	I

(15) 父親「大丈夫」^{だいじょうぶ}「お父さん^{とう}がついて いるんだから」(一63)

「DON'T WORRY.」「YOU'VE GOT DADDY HERE.」(一61)

これを見ると、英語では聞き手である千尋が主語となっている。日本語は、鈴木（1973）にあるように、両親や祖父母、兄、姉は「自分を相手の立場からみた親族名称で言うことができる」（p.153）という規則に沿ったものである。しかし、父親の他の台詞を確認すると、日本語では主語が明示されず、自称詞が使用されていない台詞においても、英語では「I」が使用されている例が確認できることから（15）は特別な例だといえる。このような使用方法は、アガサクリスティーの名探偵ポアロの台詞などにみられ⁸⁾、自分自身を客観的に指示しているようにみえる。ただし、（1）にあげた自分自身を客観的に指示しているハクの台詞は、翻訳では「CALM DOWN, I'M COMING.」(一148)と一人称を使用しているため、（15）はポアロのように自身自身を客観的に示しているというよりは、日本語の特徴を英語として自然な翻訳で表現しようとしたのではないだろうか。その他、次の台詞は日本語には自称詞が使用されているが、英語では一人称が使用されていない例である。

- (16) 千尋「うん ハクありがとう わたし がんばるね」(三22)
「THANK YOU. YOU'RE A GOOD FRIEND.」(三20)
- (17) 千尋「わたしが ^ほ欲しいものは あなたには ^{ぜったいだ}絶対出せない」(五28)
「YUBABA DOESN'T WANT YOU IN THE BATH HOUSE ANY LONGER.」
(五26)
- (18) ハク「わたしの^な名は ハクだ」(一149)
「… DON'T MAKE A SOUND.」(一147)
- (19) 釜爺「ワシには どうにもならん」(四147)
「WAYBE HE SWALLOWED SOMETHING.」(四145)
- (20) カオナシ「オレは ^{はら}腹ペコだ」(四17)
「Just keep the food coming」(四15)

(16) (20) は、話し手の行為を聞き手への評価や要求として表現している。日本語では、カオナシが異質なものとしてカタカナの自称詞を使用していたが、英語では台詞に小文字を使用して、文字を波打たせることで異質なものを表現している。(17) については、山田 (2004) にもあげられており、「全体の話の流れには変更はないが、言葉のやり取りが若干異なる。もっとも大きな違いは、カオナシは人間の欲望につけこんで取り入るのだが、千にはその欲望がない、という原作のモチーフは削除され、代わりに湯婆婆がカオナシのふるまいにうんざりしたという説明が挿入されている点である」(p.199) と述べられている。(18) は話し手の名乗りがなくなっている。『千と千尋の神隠し』は、千尋やハクなど油屋で働くものたちが湯婆婆に名前を奪われていることから、名に価値のある世界が描かれている。このように名乗りという重要な台詞が書き換えられているのは、(17) と同様に作品にとって大きな変更といえる。(19) も日本語の台詞にはない状況説明の挿入である。これらの違いは自称詞の違いとはいえ、自称詞の翻訳はすべて I・my・me・we・our・us に翻訳されるといえ、英語ではキャラクター言語としての自称詞が十分に機能していないことがわかる。

次に、対称詞の使用が英語でどのように翻訳されているかを示すと、表11・表12になる。表11・表12をみると、英語では「YOU」という人称代名詞の使用が多くなっていることがわかる。表5・表6と比べても、日本語では人称代名詞を使用していない人物も「YOU」を用いている。日本語と英語の人称代名詞の差異について、榎垣実 (1975) は「相手のことを「あなた」と使いそうに思われるが、実際にはそれはほとんど使わず、「わたし」「あなた」は含み表現ですませてしまう。だいたい代名詞を使うことは、日本語では控え目にしようとする傾向が強い」(p.110) と述べている。この日本語と英語の差異が『千と千尋の神隠し』の翻訳にも表れたといえ、前述の自称詞において日本語では「私」が明示されていない場合でも、英語では

表11 女性キャラクターの対称詞（英語）

人間界	千尋	DAD・MAM・KAMAJI	YOU
	母親	CHIIHIRO・HONEY	YOU
油屋の世界	千	DAD・MAM・HAKU・LIN・KAMAJI・GRANNY	YOU・EVERYONE
	リン	SEN・SENNNNN・SENNN・BOILERMAN・NO FACE	YOU
	湯婆婆	SEN・SWEETIE・MY BABY	YOU・EVERYONE
	銭婆	HAKU・NO FACE	YOU
	女達	LIN	

表12 男性キャラクターの対称詞（英語）

人間界	父親	CHIIHIRO	YOU
油屋の世界	ハク	CHIIHIRO・SEN・KAMAJI	YOU
	釜爺	SEN	YOU
	坊	MAMA	YOU
	青蛙	MASTER HAKU	YOU
	父役・兄役	SEN・MASUTER HAKU・LIN・HITOKOTONUSHISAMA	YOU
	カオナシ	SEN・BOSS	YOU

「I」が付加されていることからもうかがえる。また、対称詞では、日本語では名前で呼びかけている場合でも「YOU」に翻訳されている場合が多くみられた。さらに、日本語では名前が使用されているが、英語では人称代名詞が使用されていない例もある。以下がその例である。

(21) 千尋「リンさん！」(三117)

「OVER HERE !」(三115)

(22) 千尋「銭婆さん」(五120)

「EXCUSEME.」(五118)

(23) ハク「ハクね？ ハクでしょう？」「ケガしてるの？」(四40)

「HAKU? YOU'RE BLEEDING.」「HOLD STILL.」(四38)

- (24) リン「千も来い」^{せん こ}「湯婆婆まだ寝てるから チャンスだぞ」^{ゆばば まだ ね}(四18)
「WHO CARES ? COME, ON, BEFORE YUBABA WAKES UP.」(四16)
- (25) 湯婆婆「千とリン その方は オクサレ神^{かた かみ}では ないぞ」(三121)
「LISTEN TO ME. NO STINK SPIRIT WE HAVE ON OUR HANDS.」
(三119)
- (26) 父親「千尋^{ちひろ あたら} 新しい学校だよ」(一9)
「IT LOOKS GREAT, DOESN'T IT ?」(一7)
- (27) カオナシ「千の他^{せん ほか}には 出^だしてやらない ことにしたんだ」(五27)
「I'm not giving it to anybody else」(五25)

(21) や (25) をみると、英語の方が発話意図を明確に言語化している。日本語では、名前を呼ぶのみで聞き手に何かしらの意思表示を行うことが可能となるが、英語では名前を呼ぶことにそのような効果は少なく、名前を呼んだことに対する話し手の意図を明確に言語化する必要があるといえる。名前を呼ぶ台詞が多いことが、日本語の特徴か、映画という作られた台詞の特徴かは、今回の調査では明確に示すことはできないが、少なくとも『千と千尋の神隠し』においては、日本語の方が英語よりも相手を名前で呼ぶ場面が多いといえる。このような使用は、「名前を付け加えないとどうにも落ち着かない英語」(近藤富英 (2014 : p.49)) において、油屋の世界が異質であることを表現しているようにもみえる。

3.3 要求表現の翻訳

2.3において、命令形を多用することで油屋の世界を表現しながら、テ形の多用で現実世界との均衡を保ち「どこかでありそうな話」を表現していることを示した。3.3では、日本語で要求表現が使用されている台詞が、英語ではどのような形式になっているかを確認したい。(13)に対応させて翻訳を命令文・平叙文・否定文・疑問文で示すと、次のようになる。命令文のうち、「PLEASE」を用いたもの⁹⁾は別で表記し、英語翻訳で台詞がないものや動詞を伴っていないものは、「Ø」とした。

(28) 命令形	→	命令文 (禁止)	平叙文	疑問文	
オ+連用形	→	命令文	平叙文	疑問文	Ø
テ形	→	命令文 (禁止)	否定文	疑問文	PLEASE Ø
クダサイ形	→	命令文	平叙文	否定文	疑問文 PLEASE
オクレ形	→	命令文	平叙文	否定文	疑問文
クレル形	→			疑問文	

チョウダイ形	→	命令文			
ゴラン形	→	命令文			
ナサイ形	→	命令文 (禁止)		疑問文	Ø
ナ形	→	命令文 (禁止)	平叙文	否定文	疑問文
ウ形	→	命令文		否定文	
ナイ形	→	命令文	平叙文		
ネエカ形	→			疑問文	
ンカ形	→	命令文			
Ø 形	→	命令文 (禁止)	平叙文		
ノダ形	→	命令文	平叙文		Ø
イイ形	→		平叙文	疑問文	
オネガイ形	→		平叙文		
禁止ナ形	→	命令文 (禁止)			
禁止ナイ形	→	命令文 (禁止)	平叙文		
禁止ダメ形	→	命令文 (禁止)			

これらを確認すると、英語の命令文の多さが目立つ。また、命令文には「DON'T」などから始まる禁止表現があり、英語の方が禁止表現を多用することが示された。また丁寧に注目すると、日本語で丁寧な要求表現であるクダサイ形などに命令文が使用されている例がみられる。ただし、その数は少なく、次のようなものである。

- (29) 番台など「おかえり^{くだ}さい」「お引^ひきとり^{くだ}さい」「どうかお引^ひきとり^{くだ}さい」
「今夜は店じまいでございます」「お戻^{もど}り^{くだ}さい」(三80)
「HERE HE COMES.」「STOP HIM !」「WE'RE CLOSED !」
「NO ONE'S HERE !」「GO AWAY !」(三78)
- (30) ハク「お待ち^まち^{くだ}さい」(五91)
「WAIT A MINUTE.」(五89)

(29) は、油屋にクサレ神が来た場面である。相手が神であるため、日本語ではクダサイ形が使用されているが、油屋のものは必死で入場を阻止しようとしている。英語では、2例ある命令文のうち1例は部下に対して使用されているものであるために命令文も自然だが、1例はクサレ神に対して使用されており、油屋のものたちの必死さが命令文に現われているといえよう。
(30) は、ハクが湯婆婆に使用している例である。中村平治 (1988) は、「A MINUTE」によっ

て丁寧さが高くなるとしていることから、命令文であるもののハクは湯婆婆の部下であるため、丁寧さが表現されているといえる。ただし、この場面は、ハクが千尋に命を助けられたのちに、湯婆婆に意見する場面である。ハクが湯婆婆に意見するのは初めてであり、この場面には、以前はなかった湯婆婆に対抗する強い意志がみられる。日本語では、クダサイ形という丁寧な要求表現でもハクの感情の変化を推し量ることができるが、英語では命令文を用いることでより明確に示される。そして、日本語では、命令形が多く用いられることで油屋の特殊性が表現されていたが、英語においては命令文が多用されているために命令文にその効果のないことがわかる。

表13 女性キャラクターの要求表現（英語）

人間界	千尋	命令文・平叙文・疑問文・PLEASE	命令文（禁止）
	母親	命令文（禁止）・平叙文・Ø	
油屋の世界	千	命令文（禁止）・平叙文・疑問文・PLEASE・Ø	命令文（禁止）
	リン	命令文（禁止）・平叙文・疑問文	命令文（禁止）
	湯婆婆	命令文（禁止）・平叙文・否定文・疑問文・PLEASE・Ø	命令文
	銭婆	命令文・平叙文・疑問文	
	女達	平叙文	

表14 男性キャラクターの要求表現（英語）

人間界	父親	命令文・平叙文	
油屋の世界	ハク	命令文（禁止）・平叙文・Ø	命令文（禁止）
	釜爺	命令文・疑問文	
	坊	命令文	
	父役 兄役 番台	命令文・平叙文・PLEASE	命令文
	カオナシ	命令文・平叙文・疑問文	

次に、これらの使用をキャラクターごとにまとめると、表13・表14になる。表13・表14をみると、「PLEASE」の使い方が特徴的である。(29)でも確認したとおり、番台などが用いるのは、クサレ神に対してである。また、湯婆婆が「PLEASE」を使用するのは坊に対してのみであり、その使用には坊を溺愛している様子が表されている。一方、千尋は「PLEASE」の使用が多く、次のような用例となる。

- (31) 釜爺に対して「ここで働かせて^{はたら}ください」(二19)
「COULD YOU GIVE ME A JOB, PLEASE?」(二17)
- (32) 坊に対して「だから すぐ行^いかなきゃ ならないの お願^{ねが}い 手をはなして」(四101)
「I'VE GOT TO GO RIGHT NOW, SO PLEASE LET GO OF ME.」(四99)
- (33) ハクに対して「ハク お願^{ねが}い 食^たべて」(四149)
「PLEASE, HAKU, EAT IT.」(四147)
- (34) 煤に対して「みんな わたしの クツと服^{ふく} おねがいね」(五7)
「EVERYONE, I NEED MY SHOES AND MY CLOTHES, PLEASE.」(五5)
- (35) 銭婆に対して「この人達^{ひとたち}を 元^{もと}に戻^{もど}して あげ^{くだ}てください」(五124)
「…PLEASE TURN THESE TWO BACK INTO THEIR NORMAL FORMS ?」(五122)

このように、千尋は「PLEASE」を多用しており、これは千尋が誰かにお願いすることが多いことにも由来する。しかし、他の登場人物は日本語でクダサイ形を使用しているが、英語で「PLEASE」になっていない例もみられ、英語では「PLEASE」を使用するのが千尋の特徴となっている。一方、日本語では、釜爺が「ネエカ形」「ンカ形」を使うことがキャラクター言語となっているが、その特徴が英語訳されているとはいえない。

4. おわりに

以上、本稿では、『千と千尋の神隠し』を例に、自称詞・対称詞・要求表現を総覧することで役割語やキャラクター言語がどのように翻訳されているかを考察した。それぞれの特徴は要旨にあるため紙数の関係上再度まとめることは行わないが、翻訳研究において言語運用の細かい分析が重要であることを示すことができたと考える。特に、日本語と英語の要求表現には、大きな差異があるようである。『千と千尋の神隠し』では、日本語では命令形が、英語では命令文が多く用いられていたが、その表現性が異なる。中村(1988)は、「依頼は緩和要素の please と適合するが、指示は、その不必要性から、適合しない」(p.69)とあり、油屋では「指示」が多いために命令文が多くなったと考えられる。しかし、日本語における現実の日常談話では、指示であっても命令形を使用せず、だからこそ油屋での命令形の多用が、異質な油屋の世界を表現しているといえ、翻訳における don't の使用で異質な油屋の世界が十分に表現されているかは不明である。また、釜爺のキャラクターは、日本語において転訛で表現されていたが、英語訳にキャラクター言語としての表現はみられず、自称詞・対称詞も含めて、英語翻訳における役割語やキャラクター言語の困難さも示された。今回は、日本語の台詞で要求表現が

使用されている台詞に限って対象としたが、要求表現がみられない台詞において英語では要求表現が用いられている例もみられた。本稿で扱った特徴は、1つの翻訳本を対象としているため、翻訳家の特徴である可能性を否定できない。また、日本語においても英語においても、特定の作品を対象としている限り、作品固有の域を越えないのも事実である。今回示された特徴が英語一般の特徴であることを示すには、多くの作品・翻訳家の文章を対象とする必要があり、今後の課題としたい。

※ 『千と千尋の神隠し』の用例は、徳間書店発行のアニメージュコミックススペシャルフィルム・コミック『千と千尋の神隠し』全5巻（2001年）を使用した。また、例外的な使用は、東映太秦映画村・映画図書室所蔵の録音台本と差異を確認した。英語版は、VIS Media 発行のフィルム・コミック『MIYAZAKI'S SPIRITED AWAY』全5巻（2002年）を使用し、徳間書店のフィルム・コミックと対応している吹き出しを確認した。引用の鉤括弧は吹き出しと対応させ、括弧に巻数を漢数字で、ページ数を算用数字で示した。翻訳はすべて大文字で書かれているため、大文字で引用した。

注

- 1) スタジオジブリ公式ホームページによる。
- 2) ここでいう「キャラクター」とは、定延利之（2021）の「キャラ1」のことであり、「登場人物」という意味を英語“character”と共有している」（p.14）ものである。
- 3) 「指導者」のこと。金水（2019）の「ヒーローの旅」というテンプレートでは、「指導者（メンター）が現れて主人公を勇気づけ、道具や知恵を与えたりする」とされる。
- 4) 金水（2019）で使用されている使用も、本稿と同じフィルム・コミックである。
- 7) 対称詞以外でも、叫び声ではカタカナが使用されている。
- 8) 『THE LABOURS OF HERCULES』に「Hercule Poirot said : “There is no question of failure. Hercule Poirot does not fail.”」とあり、早川書房発行の『ヘラクレスの冒険』（高橋豊訳）では、「失敗なんて考えられません。エルキュール・ポアロは失敗することを知らない男なのです」と翻訳されており、自身を「失敗することを知らない男」と客観的に指示しているといえる。
- 9) 中村平治（1988）は、「PLEASE」を「緩和要素」としている。本稿では、これが日本語の命令形とテ形の翻訳の違いになることから、命令文とは別に示した。

引用文献

- 楳垣実『日英比較表現論』大修館書店、1975年
- 金水敏『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店、2003年
- 金水敏「役割語とキャラクター言語」『役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ2015 報告論集』2015年、5-13頁
- 金水敏「アニメキャラクターの言葉」『シリーズ〈日本語の語彙〉7 現代の語彙—男女平等の時代—』2019年、72-83頁
- 金水敏・文雪・劉翔・チュティバック、チャイウィロート・セバスティアン、リントソグ・トマシュ、ヴォイチェホヴィッチ「第40回研究大会ワークショップ 役割語・キャラクター言語から見た翻訳研究」『社会言語学』20（2）、2018年、34-37頁
- 小林美恵子「職場における命令・依頼表現—ジェンダー的視点から見ると—」『ことば』24、2003年、13-25頁
- 小林美恵子「『日常生活』における自称詞—特徴と使い分け—」『談話資料 日常生活のことば』ひつじ書房、2016年、41-72頁
- 近藤富英「英語における名前と呼び掛け語についての一考察」『信州農南短期大学紀要』31、2014年、47-55頁
- 定延利之「キャラとは何か」『日本語学』40（1）、2021年、14-25頁
- 嶋津拓・鮮于媚・蔡梅花・松本匡史「日本語の「役割語」と「発話キャラクタ」はどのように「翻訳」できるのか—アニメ『君の名は。』の外国語版字幕から考える」『埼玉大学日本語教育センター紀要』14、2020年、3-14頁
- 鈴木孝夫『ことばと文化』岩波書店、1973年
- 高橋美奈子「家族の談話にみられる行為要求表現の現在」『談話資料 日常生活のことば』ひつじ書房、2016年、215-237頁
- 田中歩美「中国語版の『千と千尋の神隠し』から見る映画翻訳における問題点について」『青翠』5、2004年、4-23頁
- 中村平治『日英語の依頼と応答』大阪教育図書、1988年
- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部編『日本国語大辞典第二版』小学館、2000-2002年
- 山田健太郎「英語版アニメ作品に見る翻訳の問題：『千と千尋の神隠し』の場合」『県立長崎シーボルト大学国際情報学部紀要』5、2004年、195-205頁

安 井 寿 枝

引用ウェブサイト

スタジオジブリ公式ホームページ <https://www.ghibli.jp/>（最終閲覧日2021年2月15日）

研究社WEBマガジン「〈役割語〉トークライブ！第19回 虚構の物語と「役割語」―表現リソースとしての日本語の文字（1）」（松田結貴執筆）（最終閲覧日2021年3月18日）

<http://www.kenkyusha.co.jp/uploads/lingua/prt/19/yakuwari1911.html>

（やすい・かずえ 外国語学部講師）